

令和 7 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和 7 年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和 7 年 4 月 17 日（木）

3 調査対象

小学校 第 6 学年（国語，算数，理科，児童質問調査）

中学校 第 3 学年（国語，数学，理科，生徒質問調査）

4 本校の参加状況

① 国語 205 人

② 数学 205 人

③ 理科 202 人

5 留意事項

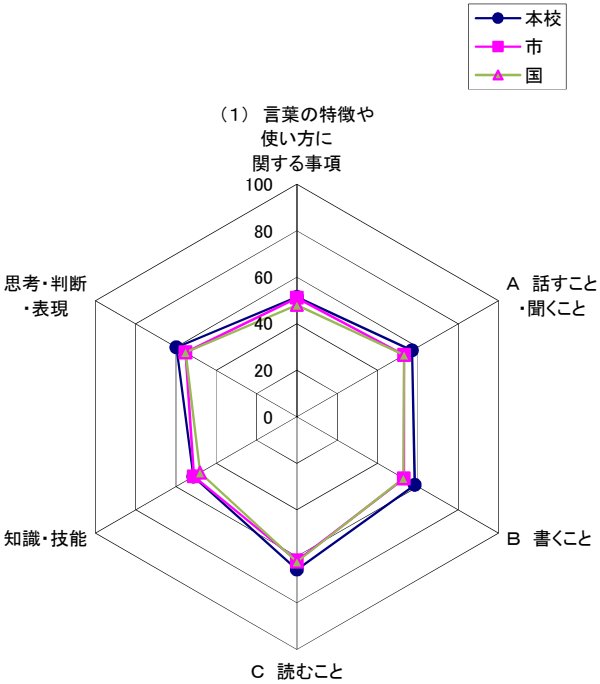
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の 3 教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	51.5	51.1	48.1
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化にに関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	57.1	53.2	53.2
	B 書くこと	58.5	53.1	52.8
	C 読むこと	65.7	61.8	62.3
観点	知識・技能	51.5	51.1	48.1
	思考・判断・表現	59.8	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

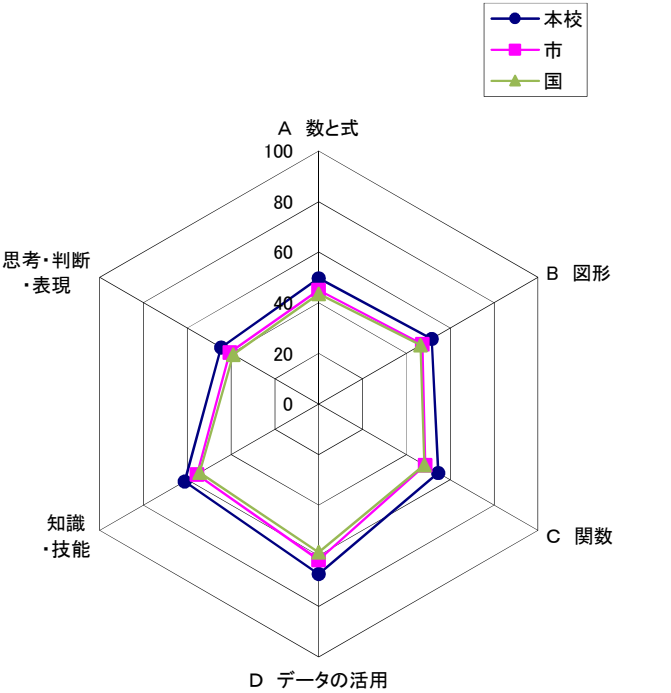
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○市の平均を0.4ポイント、国の平均を3.4ポイント上回った。 ●適切な漢字を選択する問題の正答率が38.5%であった。文脈に合った漢字を同音異義語から選ぶ際に、正しい意味の漢字を選ぶ問題について苦手な生徒が多かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学んだ漢字が確実に定着しているかを確認するために、漢字テストを実施するとともに、漢字の覚え方を工夫させ、効果的に語彙力の向上を図るように促す。また、教材に関わりのある文章や教材と同テーマの文章など、多様な文章に接する機会を増やすよう指導していきたい。
(2) 情報の扱い方にに関する事項		
(3) 我が国の言語文化にに関する事項		
A 話すこと・聞くこと	○市と国の平均を3.9ポイント上回った。 ○聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものと適切なものを選択する問題の正答率は82.4%と高かった。 ●資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する問題の正答率が29.3%と低かった。	・視覚的に分かりやすい資料の作り方を学ぶ機会を作るとともに、その資料が何を意味しているかを具体的に述べ、聞き手に自分の考えや意図が伝わったかどうかを確認するような活動を適宜行う。 ・タブレット端末を使って資料を作成し、プレゼンテーションを行う授業を行うなど、情報を整理して伝える技術を身につけさせたい。
B 書くこと	○市の平均を5.4ポイント、国の平均を5.7ポイント上回った。 ○目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題の正答率は83.4%と高かった。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題の正答率が31.7%と低かった。	・説明的文章を読む際、事実と根拠を明確にして捉えることを今まで以上に意識させる。さらに、優れた文章から構成や論の展開を学ぶことによって、自分が書いた文章の推敲において、曖昧な表現や分かりにくい表現がないかどうかを自己分析でできる力を養っていきたい。
C 読むこと	○市の平均を3.9ポイント、国の平均を3.4ポイント上回った。 ○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率が90.7%と高かった。 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える問題の正答率が23.4%と低く、無回答率が25.4%と高い。	・正答率が低く、無回答率が高い設問は、物語的文章を読み取る力と、読み取ったことを表現する力の両方が必要な問題であった。読解力を向上させるために、物語を段落ごとに要約する、読み取ったことや解釈を話し合わせるなどの活動を継続的に行っていく。また、表現力向上のために、単元の終末などで、条件に合わせた振り返りを記入する場面を適宜取り入れていく。

宇都宮市立横川中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	49.7	45.0	43.5
	B 図形	51.5	47.2	46.5
	C 関数	54.5	48.5	48.2
	D データの活用	67.2	61.6	58.6
観点	知識・技能	61.2	55.6	54.4
	思考・判断・表現	44.6	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○正答率が市を4.7ポイント、国を6.2ポイント上回っている。 ○素数を選ぶ問題や数量を文字を使って表す問題では、市、国の正答率より5.0ポイント以上上回っている。 ●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低く、無回答率が市、国よりも5.0ポイント以上高い。	・計算プリントやワークなどを使い、引き続き計算問題を多く解くとともに、文字が何を表しているのかを明確にして変形を行うことで、正確に意味をとらえやすくなることを実感させたい。
B 図形	○正答率が市を4.3ポイント、国を5ポイント上回っている。 ○条件を変えた四角形が平行四辺形であることの証明を完成させる問題では、9(2)(3)で市、国を5.0ポイント以上上回っている。 ●平行四辺形になることを証明する問題では、市、国とも平均を上回っているものの、無回答率が29.3%と高い。	・図形の証明問題では、論理的な思考はできていても、書けないという傾向があることから、証明の書き方をもう一度確認し、身につけさせたい。
C 関数	○正答率が市を6.0ポイント、国を6.3ポイント上回っている。 ○増加量を求める問題やグラフから必要な情報を読み取る問題では、市、国を5.0ポイント程度上回っている。 ●事象を数学的に説明する問題では、市、国より5.0ポイント以上高いが、無回答率が高い傾向にある。	・グラフ、式、表から必要な情報を適切に読みとり、数学的に説明できるよう、問題をよく読み、必要な情報を読み取り、分析したことを言語化しながら問題解決することを意識させたい。
D データの活用	○正答率が市を6.4ポイント、国を8.6ポイント上回っている。 ○相対度数を求める問題や確率を求める問題の正答率は市、国ともに上回っている。特に7(1)の問題は正答率84.9%と高かった。 ●相対度数を求める問題の無回答率は7.8%で、国の9.4%よりは低いですが、市の7.2%よりは高かった。	・代表値や相対度数、箱ひげ図関係の内容など復習を丁寧に行い、くり返し問題演習を行うことで理解を定着させたい。

宇都宮市立横川中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定回答が国を4.9ポイント、県を2.8ポイント上回っている。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定回答が国を5.0ポイント、県を2.9ポイント上回っている。学校内で、教員をはじめとする職員と生徒のコミュニケーションがうまく図られている成果であると思われる。今後も生徒に寄り添い、話をしやすい雰囲気づくりを心掛ける。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定回答が国を7.9ポイント、県を4.4ポイント上回っている。2年次に行われた社会体験学習や、それに向けた学級活動や総合的な学習の時間でのキャリア教育、各家庭で進路に関する話し合いや体験が充実していることの表れと思われる。進路実現に向けて、具体的な目標をもって努力していけるように様々な場面で働きかける。

○「読書は好きですか」の肯定回答が国を16.6ポイント、県を13.3ポイント上回っている。朝の読書にも静かに取り組む生徒が多く、これからも読書に親しめる環境づくりを進めていく。

○「理科の勉強は好きですか」の肯定回答が国を10.6ポイント、県を6.1ポイント上回っている。また、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」の肯定回答が国を8.7ポイント、県を6.6ポイント上回っている。「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」の肯定回答が国を9.3ポイント、県を7.6ポイント上回っていることから、幼少期での自然と触れ合う体験学習の質と量が、理科好きな生徒を育成するために大切であることが分かる。

●「国語の勉強は好きですか」の肯定回答が国を6.7ポイント、県を7.9ポイント下回っている。

宇都宮市立横川中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
全学年で統一した自主学習の実施	・自主学習ノートの使い方や取り組む内容などについて全学年同一歩調で行っている。 ・提出されたノートの確認について担任だけでなく、副担任や学年主任も加わり、複数の目で確認するようにしている。	・「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」に対する肯定回答の割合が56.7ポイントで、県を1.0ポイント上回っている。 ・「家で学校の授業の予習をしている」に対する肯定的回答の割合が57.8ポイントで、県を16.0ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」という質問に対して「1.はい」と答えた生徒が49.4ポイントで、県の平均61.6ポイントから12.2ポイント低い。	授業における、話し合い活動の充実 「主体的・対話的で深い学び」の実現	・授業において、生徒の思考力、表現力、協調性を高められるような話し合い活動の工夫をする。 ・話し合い活動の形式を工夫（ペアワーク、ジグソー法、ワールド・カフェなど）し、生徒の意欲を高める。